

令和2年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立酒田光陵高等学校

学校教育目標 1 進取の気性を持ち、知徳体が調和し、心身ともに健康な人間を育成する 2 高い専門性と国際的な視野を持ち、公益の心を持つ創造力豊かな人間を育成する 3 地域の産業や文化・環境を理解し、地域を大切に思う人間を育成する		重点目標 1 豊かな心と健やかな体の育成 2 社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成 3 学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり
目指す学校像 1 普通教育と専門教育を併せ持つ、学際的な教育を展開する高校 2 特色ある教育活動を展開し、多様な進路希望を実現できる高校 3 公益活動、自然環境の保護、及び国際化に取り組む高校 4 地域と連携・交流し、地域社会の発展を担うリーダーを育成する高校 5 スポーツ・文化活動の地域拠点校としての役割を担う高校	育てる生徒像 1 豊かな心とたくましい体をもち、社会から信頼される人 2 公益の心と高い志を持ち、自己実現を図る人 3 高い専門性と実践力を身につけた、将来のスペシャリストとなる人 4 自分が育った地域を大切に思い、地域を支えていく人	

達成度	A・・・達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
-----	--------	----------	-----------	---------

自己評価(年間)					
番号	評価項目	具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び取組み状況	達成度	次年度に向けた改善策
1	豊かな心と健やかな体の育成	①笑顔とやさしさ、挑戦する勇気を育む教育の推進 ②端正な装いと元気で明るい挨拶の推進 ③心身の健康バランスを育てる部活動の充実	・コロナ禍、特に生徒の安全安心の確保に努めた。 ・登校時指導など日常を大切に声かけで、生徒の規範意識が高くなり、ルールを遵守しようとする気持ちが向上した。 ・部活動が制限される中で、工夫しながら競技力向上や情操教育が育まれた活動が実施できた。	B	・自己肯定感や自尊感情を育むために、多様性を理解できるような学校行事等を実施する。 ・「働き方改革の指針」「部活動の在り方に関する方針」に基づいて、魅力ある学校づくりと部活動運営とその活性化に継続して取り組む。
2	社会を生き抜く基盤となる確かな力の育成	①社会人基礎力を育てるキャリア教育の充実と評価基準の研究 ②基礎学力の定着に資する、授業及び評価の研究推進 ③生徒の主体的な学びに資する、新たな授業方法の研究と実践	・企業や大学等との連携授業や地域貢献活動をとおり、資格取得や各種教育事業を取り入れ授業の活性化を図ることで社会人基礎力を高めることができた。 ・個別最適な教材や学習指導法の開発に向けて研究を深めることができた。 ・普通教室におけるWi-Fi環境や黒板投影プロジェクトなどICT環境の整備を進めることができた。	A	・ICT機器の活用については、学習活動の環境整備が進むことから、更に学校生活全般での利活用について研修を深め、家庭学習等の充実を図る必要がある。 ・新学習指導要領の実施に向けて、指導と評価の一体化を進める。 ・特に、コミュニケーション能力を高める授業を意識し、生きてはたらく力を身に付け社会人基礎力をさらに高めたい。
3	学校・家庭・地域との連携・協働による開かれた学校づくり	①地元を知る学びの推進 ②地域貢献に資する教育活動の推進 ③ICTを活用した情報の発信と共有の充実	・地域と連携した課題研究により、地域を知り、課題の解決に向けた協働を行うことができた。 ・SKIESの活動により、他校とのつながりを持ちそれぞれの特色を活かした取り組みをしている。 ・「さくら連絡網」を活用することで特に家庭との連絡が各段階スムーズになった。	A	・社会教育としてのPTA活動や校外活動を工夫して推進する必要がある。 ・地域貢献活動やそのベースとなる教育活動が、学校全体のものとなるために、学科や年次に応じてふさわしいものになるように引き続き検討していく。

学校関係者評価	
意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・互いの多様性を認め合い、全体最適化で物事を考える。そうすると社会が自然に高めあい、楽しめる学校地域となるのではないかな。 ・コロナ禍、生徒の安全で安心な環境づくりに努め、落ち着いた学校生活を送ることができた。環境の変化に順応できず、ストレスや孤立感を感じる生徒へのきめ細かな支援が必要である。全国で高校生が頑張っており、高校生が社会を変えていく時代である。光陵高校ならではの教育を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の仕組みや人間性、多言語でのコミュニケーション、多様な人々と関わりができる力を身につけると活躍の場が増える。ICTを活用した新たな学習方法・プログラムの構築とあわせて教職員の積極的な研修が必要である。 ・日本人は実体験が少ない。ITを使った売上の体験や、ファイナンス、英会話、IT関係で実体験する機会を作り出してはどうか。 ・高校進学の際、学科選択のミスマッチを補う総合選択制でフォローして、時代に即した進路指導の充実をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校よ進路目標達成のため努力している。多様な生徒一人ひとりの学習等の支援のためにICT機器の活用など包摂性のある学習指導や保護者への学習の機会をさらに進める必要がある。 ・多様な人々との交流は感性や共感性を磨く。また、海外との交流においては時差以外にコリアはない。生徒、教職員の年齢や場所を超えた交流や、オンライン研修の充実をさらに進めて頂きたい。 	

総括
<p>今年度の重点目標を概ね達成できました。その中でも特に「生徒の満足度」に留意しつつこれからも社会人育成力を注いでまいります。また、生徒一人ひとり個別最適な学びのために生徒の多様性を理解し、生徒が持つ様々な力を成長できるようサポートしていく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情を高めるとともに、外に出て多くの文化に触れることで、自分や地元がより分かるようになる仕組みづくりを今後も進めてまいります。 ・ICT機器やSNSの活用で、教育効果を最大限高めるための取組みを継続します。 ・生徒の協働的な学びのため、一般社団法人SKIESの活動を今後も積極的に発信いたします。

自己評価及び学校関係者評価の改善点等	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールポリシーのもと、家庭・地域とともにある学校づくりをめざす必要がある。 ・ICT機器やSNSの活用などのデジタル技術の活用とコミュニケーション力等アナログのバランスを意図して、社会人として必要な基本的対人スキルを養成する必要がある。
---------------------------	---